

”志望校合格”レベルの学力に鍛える

個別指導 数専ゼミ冬期講習会

「わかる」から「解ける」とはかぎりません！
「わかる」を「解ける」にする「学力化学習法」による講習会です！

■冬期講習の期間

前期 12月24日（火曜日）から12月29日（日曜日）までの連続6日間

後期 12月31日（火曜日）から1月5日（日曜日）までの連続6日間

(1) 次のA～Fの組の中から受講希望の組を選んでお申し込み下さい。（いずれも午後）

前期 A組(4:30～6:00)／B組(6:00～7:30)／C組(7:30～9:00)

後期 D組(4:30～6:00)／E組(6:00～7:30)／F組(7:30～9:00)

(2) A組～F組の中から、複数の組にわたって受講することもできます。

原則として、1つの組では6日間1科目の学習をします。2科目以上受講したい場合には、2つ以上の組を選択受講して下さい。（中途半端な学習で終わらせないためです。）

小学生 算数 **中学生** 数学、英語、**高校生** 数Ⅰ、数A、数Ⅱ、数B、英語(英文法)

★以上の科目の中から、学習したい分野だけを選んで受講できます。

志望校合格に必要なレベルまで指導します。（例えば、東西南北高志望の場合は80%以上の正答率など）

(3) この期間中に出席できない日がある場合には、後日振り替え授業をしますので、その旨お申し出下さい。

■講習会の費用（小学生、中学生、高校生とも同一です）

1コマの授業は90分で、1科目6コマを「1単位」として受講して下さい。

1単位（90分×6回）の受講料は、**15000円**となります。

（空調費、教材費、消費税などの経費は必要ありません）

■受講の申込「受講申込書」に必要事項を記入し、受講料を添えて教室まで持参して下さい。

*「受講申込書」はインターネットからダウンロードできます。教室にも用意してあります。



高校入試対策・中3数学

過去問をすべて解けるようになること
から受験対策は始まる！

過去問学習で大切なことは、自分でできる分野と習ったほうが速い分野を区別して学習することです。

自分では分かることを他人につきあって学習している時間などはないはずです。

山形県入試で高頻出、高配点、高難度の問題は3番問題と4番問題だけです。

3番問題は「1次関数」、4番問題は「相似・円・三平方の定理の図形の総合融合問題」で、いずれも、100%の出題率、20点以上の配点、超難問題です。これは問題集の解答を見ても理解できない問題もあります。塾で教えてもらうしか”手”はありません。

さらに、1次関数では、動点と面積、ダイアグラム、水量変化の問題が主として出題されますが、どの分野が出題されるかは予想ができませんので、自分の苦手な分野については10年以上にさかのぼって過去問を解けるようにしておく必要があります。

たとえば、過去5年分の過去問を学習して今年の春の受験に臨んだ人は、

平成26年度 動点問題（重なる部分の面積を求める）

平成27年度 動点問題（三角錐の体積、台形の面積）

平成28年度 速さの問題（追いかける問題、復路）

平成29年度 動点問題（重なる部分の面積を求める）

平成30年度 動点問題（三角形の面積）

については、しっかりと解けるようになっています。

ところが…平成31年度に出題されたのは、

水量変化の問題（入れるだけの問題、階段状水槽）

でした。

ちなみに、水量変化の問題が直近で出題されたのは

平成21年度（水を出す問題、階段状水槽）です。

つまり、10年分くらいさかのぼって過去問を解けるようにしておかなければ受験勉強としては十分ではない、ということです。

また、水槽問題であっても、水を出すだけの問題、水を入れるだけの問題、水を入れながら出す問題、水槽の形にしても、直方体の水槽、階段状の水槽、2個の水槽、直方体を2個つなげた水槽など、多様な問題で出題されています。だから、水槽問題が苦手な人は、およそ出題されたすべての過去問を解けるようにしておく必要があります。

どんなジャンルが、いつ、何点配点で、どのような難しさで出題されたかは、数専ゼミのホームページで紹介しています。

suusenn.com → 「1次関数」攻略セミナー

そこで、数専ゼミでは過去48年分に出題された過去問を、動点、ダイヤグラム、水槽、直線等々、ジャンル別に学習できるように教材を再構成して、過去問指導を行います。

4番問題についても同様です。

また、1番問題は計算や作図のような独りで学習できる問題ですので、数専ゼミは受講日ごとに1年分ずつ過去問とその詳細な解法を説明した資料を渡します。解けない問題については、次回に塾にもってくれば指導します。

2番問題は、方程式の文章題、2次関数などで、独りでできる人とできない人が別れる問題です。この分野を苦手としている人には塾で指導しますので、お申し出下さい。

中1, 中2数学

以上の入試対策をみすえて、

1, 2年のいまからの入試対策としては、

1年 方程式の文章題

2年 連立方程式の文章題, 1次関数

であることは自明です。

教科書レベルの基礎問題から、できる人には山形県入試出題問題(過去問)を解く指導をします。

小5, 6算数

当然、小学生も高校入試をみすえての学習が必要です。

方程式や1次関数の土台となる考え方を必要とする問題を解けるようにしておく必要があることから、今回の講習会では、次の単元の指導をします。

- ・平均・単位量あたりの大きさ、割合(百分率)
- ・比と比の値、速さ、量の単位のしくみ

高校数学

— 復習的予習のすすめ —

「できるだけ早く共通テスト対策を始める」がレベルの高

い大学を目指している人のキーワードです。つまり、教科書の学習はできるだけ早く終えてしまう、ということです。「既習部分でよく分からないところがあるから復習して…」というのは後ろ向きの受験勉強です。無駄が多く、効果のにくい学習法ともいえます。簡単な例を紹介しましょう。わり算です。覚えていますか、小学三年生の頃です。よく、間違えた記憶はありませんか。間違えた時どんな勉強をしましたか。わり算ができるためには、ひき算とかけ算が必要です。間違いはけっこうひき算の部分でできます。わり算ができないからひき算の復習をして…というのが常識的勉強法ですが、賢いお母さんは、わり算の勉強を先に進めながら、ひき算を間違えたらその原因を見つけ、その部分を矯正しながら先へ進ませたはずです。新しいことを学習しているときにこそ間違えて覚えていたことがはつきりと現れるからです。移項における符号のまちがい、あるいは分配法則における符号のかけ忘れ等々という間違いも、それ自体は知っていることだけれども、新しい方程式という勉強のなかで、本当にはわかっていなかったのが露見するのです。だから、新しいことを学ぶことは、自分の弱点をあぶりだすことであり、それを矯正しつつ学習を進めることで最も効率的かつ効果的に復習をすることができるようになります。戻って復習することは、分かっていることも繰り返すために時間の無駄になります。何が分かっていないのかもそういう勉強では露見しません。

復習的予習によって、早く教科書を学習しあげ、少なくとも高2の夏ごろから共通テストや予備校の模試の過去問に取り組み、並行して2次の学習を進めていくことが最強の大学受験対策学習法といえます。

今回の講習会では、こうした学習法を体験できます。

学習のレベルは学習する問題の出典から判断して下さい。

これらの参考書や問題集の中から問題を選択構成しながら教科書の単元順に学習を進めていきます。

青チャート・赤チャート, Focus Gold, サクシード, 4STEP, エスコート, ハイスコープなど

今、学校で学習している内容の次から学習を始めます。

高校数学 I・A 記述対策

数I Aの全単元のどこから出題されても解ける力をつける記述問題の解答技術を身につける練習です。ノーヒントです。まさに、実戦的な演習といえます。156題用意しました。できるところまでやります。

かけがえのないひとり一人の教育に徹して!

47年の指導実績
数学専門指導塾

数専ゼミ

山形市東原町二丁目10-8 (サンエー前十字路西へ80m)

TEL 633-1086

入試対策・英語

－高校入試 & 大学入試－

英語の入試勉強も数学と同じく、自分でできる分野と習ったほうが速い分野を区別して学習することです。

たとえば、リスニングは毎日少しずつ英語を聞いて、英語に慣れておく必要があります。週1回塾で学習しても、リスニングの力などつくわけがありません。

また、長文読解も週1回では1題程度しが学習できず、受験対策としては効率的ではありません。長文読解は、時間のある家庭で学習すべき分野です。

では、塾では何を学習したらいいのか？

英作文（整序英作文、和文英訳、課題英作文）と英問英答問題と書きかえ問題です。

なぜなのか。

実は、長文読解の基礎力とは、英文を見て「え～と…」ではなく、英文をまるごと頭に写し取った瞬間にその構造から「意味」がわかる力のことで

つまり、高校入試の場合は試験時間は50分で、長文が2題出題されます。その長文をいちいち日本語に訳していたのではとても問題に答える時間がなくなります。

英文は「読んだらそのまま意味がわかる」状態でなければ解けません。

そうした力をつけるのが英文の構造に関する知識です。

たとえば、

Ken has to learn English everyday, but his sister Emi has not to learn it.

この英文を「読んだ」瞬間に、英語を勉強しなければならないの健であるということが理解できる必要があります。

これを理解するための土台はSVOという文型についての知識であり、have toという助動詞の意味であり、butを使った等位接続詞の働きに関する知識です。

これらの知識を瞬時に呼び出すことで意味がわかります。

別に日本語に直す必要はありません。

このような力を養うのが、英作文や英問英答や書換の学習です。もちろん、このような学習を積むことで、英問英答問題で英語で答えることや課題英作文の問題で、自分の考えを英語で表現する力もつくことは当然のことです。

文法の学習というのは、単なる穴埋めや適語選択の問題をやるのでは、このような長文を読解する力はずきません。英文構造を専門的に学び取る文法学習をしなければ実戦的な受験英語の能力はつきません。

数専ゼミの講習会では、このような英文構造を学ぶ文法学習をするわけですが、具体的にはどのような勉強をするのかについては、ホームページをご覧ください。

要約すれば、

構造パターンごとに、例えば、There is文を学ぶときは、

①英文和訳→②整序英作文→③和文英訳（構文指定）→

④英文和訳→⑤条件英作文＋書きかえ＋英問英答

の順で学習し、この後で、Is there ...?/There isn't文についても同様なプロセスで学習するという事です。

学習する文法項目については、個人ごとに、次の中から選択していただけます。

中2 助動詞 (be going to/will/must/have to)

接続詞 (that, when, if)

不定詞・動名詞

文型 (There is/look/become/SVOO)

比較級・最上級

受け身

中3 現在完了

不定詞 (It is ~ (for 人) to .../疑問詞+to)

不定詞 (ask 人 to 不定詞/SVOC)

間接疑問文

分詞による後置修飾、接触節

関係代名詞

高校英語Ⅰ (文型、動詞と時制、助動詞、進行形、完了、受動態、不定詞、動名詞、分詞、名詞・冠詞、代名詞、形容詞・副詞、比較、接続詞、関係詞、前置詞、否定、強調)

高校英語Ⅱ (文型、未来時制・進行形、完了形、受動態、助動詞、動名詞、分詞・分詞構文、関係代名詞、関係副詞・複合関係詞、比較、接続詞、句と節、話法 (時制の一致)、特殊構文、名詞・代名詞)

★数専ゼミ・通常授業のご案内★

(1) 対象・科目

小学生 算数 (5, 6年生のみ)

中学生 数学 (希望者には英, 国, 理, 社も指導)

高校生 数学 (数Ⅰ・A, 数Ⅱ・B, 数Ⅲ)

(2) 指導形態

気詰まりな1対1指導ではありません。3～4人のグループで学習し、先生が個別に指導します。

(3) 授業日

月, 火, 水/土, 日から選択受講できます。

(4) 授業時間

A組 4時30分～6時

B組 6時～7時30分

C組 7時30分～9時

} ここから選択受講できます。

(5) 授業料・入学金

1コマ90分授業を月4コマ受講して1万円です。

(ただし, 1, 3, 4, 7, 8, 12月は月3回の授業)

入学時にのみ入学金15000円が必要です。

(授業料以外の諸経費は一切不要です。)

★他塾に在籍していても、数専ゼミで数学だけを受講できます。